

通所リハビリテーション利用者の現状と 今後の方向について

介護老人保健施設 セージュ山の手

加地 里江¹⁾、瀬古 佳代子²⁾

1) 精神保健福祉士 2) 介護職員

1. はじめに

今回、通所リハビリテーションにおける現在の利用者の実態を把握することで、今後のサービス提供のあり方を検討していきたいと考え、そこで以下の事項について調査を行ったので報告する。

2. 利用者の男女別人数と平均年齢（表 1）

2005 年 10 月 1 日現在の利用者の人数は 104 名(男性 44 名・女性 60 名)である。

表 1 利用者の男女別人数と平均年齢

| | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 |
|----|-------|---------|---------|---------|
| 男性 | 6(5%) | 16(15%) | 18(18%) | 4(4%) |
| 女性 | 0(0%) | 18(18%) | 28(26%) | 14(13%) |
| 合計 | 6(5%) | 34(33%) | 46(44%) | 18(17%) |

利用者の年齢層としては、75 歳～85 歳位が全体の半分を占めている。男性利用者が比較的 70～80 代が多いのに対して、女性利用者は 75～90 代と年齢幅が広い。さらに、平均年齢は男性が 79 歳、女性が 83 歳と女性のほうが平均年齢が高く、日本の平均寿命とほぼ同じ結果となった¹⁾。

3. 利用者の要介護度（表 2）

男性、女性共に要介護 1 が大半を占めている。平均介護度は男性 1.7、女性 1.9 と女性のほうが若干介護の度合いが重い。

表 2 利用者の要介護度

| | 要支援 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 |
|----|-----|------|------|------|------|------|
| 男性 | 1 | 21 | 10 | 7 | 3 | 2 |
| 女性 | 5 | 30 | 11 | 8 | 5 | 1 |
| 合計 | 6 | 51 | 21 | 15 | 8 | 3 |

4. 利用者の疾病（表 3）

認知症 36%、脳血管障害 17%、精神疾患は 9%、変形性(膝・腰)の疾患は 8%であった。全体の中では認知症が多く、精神疾患は統合失調症、うつ病、アルコール症であった。

その他の疾病においては、男性が心疾患、癌術後、糖尿病等の疾患、女性が心疾患、高血圧症、腰椎圧迫骨折等の疾患があげられる。

表 3 利用者の主病名別

| | 脳血管障害 | 老年痴呆 | 血管痴呆 | アルツハイマー病 | 精神疾患 | 変形性(膝・腰) | その他 | 合計 |
|----|-------|------|------|----------|------|----------|-----|-----|
| 男性 | 14 | 6 | 4 | 2 | 2 | 3 | 13 | 44 |
| 女性 | 4 | 15 | 6 | 4 | 7 | 5 | 19 | 60 |
| 合計 | 18 | 21 | 10 | 6 | 9 | 8 | 32 | 104 |

5. 要介護度別個別リハビリ対象者（表 4）

現在、個別リハビリを行っているのは全体の 66%である。

疾病別でとみると脳血管障害・変形性(膝・腰)の疾患、骨折後等、ほとんどが身体機能の維持・向上を図ることを目的にリハ

ピリを行っている。

さらに、主病名が認知症で筋力低下の見られる利用者の 27%が個別リハビリを行っており、現在のADLを維持するという予防目的で個別リハビリを希望する対象者も増えてきている。

表4 要介護度別個別リハビリ対象者

| 要介護度 | 要支援 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 |
|------|-----|------|------|------|------|------|-----|
| 人数 | 5 | 33 | 14 | 8 | 7 | 2 | 104 |

6. 利用者の通所期間 (表5)

表5 通所期間

| | 6ヵ月未満 | 1年未満 | 2年未満 | 3年未満 | 5年未満 | 10年未満 | 合計 |
|----|-------|------|------|------|------|-------|-----|
| 男性 | 8 | 7 | 11 | 6 | 9 | 3 | 44 |
| 女性 | 10 | 8 | 8 | 10 | 13 | 11 | 60 |
| 合計 | 18 | 15 | 19 | 16 | 22 | 14 | 104 |

通所期間としては、2年以上継続して通所されている方が全体の68%で、3年以上の方は35%であった。約10年という長い方もおり、通所を継続することで身体的・精神的にも機能低下を防ぎ、維持することができているのではないかと感じた。

そして、男女別でみると、当初は女性利用者が多かったが、介護保険が浸透してきた事により、徐々に男性利用者も増加している傾向にある。

7. 利用者の世帯状況 (表6)

夫婦のみ世帯(23%)が一番多く、次いで娘家族と同居世帯(23%)、息子家族と同居世帯(17%)、単身世帯(16%)、という結果であった。

やはり高齢者世帯、核家族世帯が多いことが見うけられ、さらに単身者の多さにも驚き

を感じた。また、子供と同居するにあたっては、息子よりも娘と暮らしている方が多く、以前のような長男が親の面倒をみるといった傾向は減り、娘の方が暮らしやすいという状況に変化してきたことが考えられる。今後高齢化に伴って世帯状況は変化していくのではないかと感じている。

表6 利用者の世帯別

| | 2人暮らし夫婦 | 未婚の子夫婦と同居 | 息子家族と同居 | 娘家族と同居 | 単身 | 未婚の子単身と同居 | 兄弟と同居 | その他 |
|----|---------|-----------|---------|--------|----|-----------|-------|-----|
| 男性 | 20 | 6 | 2 | 7 | 4 | 3 | 0 | 2 |
| 女性 | 4 | 3 | 16 | 17 | 13 | 2 | 1 | 4 |
| 合計 | 24 | 9 | 18 | 24 | 17 | 5 | 1 | 6 |

8. おわりに

調査を通して、年齢幅が広いこと、男性利用者の増加、認知症利用者への対応、介護予防と様々な特徴・ニーズがあることを発見した。

その為、現在は男性の囲碁グループや認知症の方達の小集団回想療法など、小グループ活動を進めてきているが、さらにそれぞれに対応したプログラムが必要であることが考えられる。

今後も、在宅での生活を維持できるよう、個別性を重視した小グループ活動の内容をどのように提供できるかが課題である。利用者のニーズに対応した、興味・関心が持てるようなプログラムと満足して頂けるサービスの提供ができるよう努力していきたい。来年度から始まる介護予防事業においても、通所リハビリテーションとしてどう関わっていくのかについて検討しながら、より質の高い内容を提供していきたい。

文 献

- 1)福祉士養成講座編集委員会：老人福祉論．
中央法規出版，東京，pp38-39，2002